



# 国際結婚女性 支援ネットを

## 分科会 組織づくり協議

【ホノルル2日＝平良吉弥】第一回世界のウチナンチュ会議(主催・ナンチュ会議)



ハワイ沖繩連合会、WU Bハワイは二日前日(本時間三日午前)、ホノルル市内の東西センターで最終日の討議が行われ、県人会のネットワークや経済、文化など幅広い分野での協力体制構築を再確認した。国際結婚の問題について話し合う

国際結婚による問題について話し合われた分科会「米ハワイ・ホノルル市内の東西センター」

分科会では、ウチナンチュの嫁が離婚や文化の違いから生じる問題を助け合う組織の発足を求める声が上がると活発に議論した。(一面参照)

「国際結婚とウチナンチュ嫁」について話し合う分科会には、女性五人がパネリストとして出席。生活習慣の違い、育児の困難や離婚など、海外で直面する問題を体験

を交えて語った。

エミ・ウエハラさん

(モ)「カリフォルニア」は結婚後、米国、日本の各地を引越した経験を語った上で、「沖繩を恋しく思っているが、移住

を交えて語った。先の県人会との交流が活

力になる。助け合っ

みを話し合うことが大切」と説いた。

離婚後、二〇〇一年に息子を出産した英子・宜保・キングさん(タミ)は

「人生は自分のために生きていきたい」と語

た。

参加者やパネリスト

ら、国際結婚による問題

を助け合う新たなネット

ワークの構築を求める意

見が出され、組織の発足

に向けて話し合いを続け

ていくことを確認した。

コーディネーターした二

ユーヨーク県人会の定子

与那覇・トウシー会長

は「沖繩では離婚しても

家族や親せきの助けがあ

るが、海外では誰の助け

もなく、多くの問題を抱

えている。ウチナンチュを

サポートする体制は

だ」と指摘した。